

図書館と利用者をつなぐ虹の架け橋
～図書館情報誌パララ～

P(People)a(and)r(rainbow)a(and)l(library)a(and)

早春号 2023. 2 - 3
VOL.140

大野城まどかぴあ図書館



伝えたい

和の文化

～大切にされてきた文化をこれからも～

日本文化の魅力が詰まった本を紹介します。

『与楽の飯』

東大寺造仏所炊屋私記』

澤田 瞳子／著

光文社

【 F ㍿ 』

奈良時代、東大寺の大仏建立は全国から多くの人を集めた国の一大作事でした。炊屋(かしきや)は食事処のこと。つらく大変な仕事に従事する者たちを美味しい食事で満たします。しかし身分のちがいや、未開の地であった東北への偏見が根強かったこの時代。炊屋を中心に様々な人間ドラマが繰り広げられます。大仏が造られた背景に思いを馳せることができる物語です。

『あやつられ文楽鑑賞』

三浦 しをん／著

双葉社

【 B 777.1 ミ 』

文楽＝人形浄瑠璃に携わるプロへ取材を重ねた著者がその魅力を語ります。人形は「足遣い」「左遣い」「主遣い」の三人で動かし、とても繊細な動きを必要とされます。「足遣いを十年、左遣いを十年やって、ようやく主遣いになれる」そうで驚きです。文楽に疎くても、素人目線で綴られる著者の体験記が親しみやすさを感じさせます。ぜひ文楽の世界を覗いてみてください。

『日本の絶滅危惧知識』

吉川 さやか／文

新谷 尚紀／監修

ベストセラーズ

【 382.1 ヨ 』

「十二単って究極の防寒着?」「納豆って実は季語?」現代人に馴染みの薄い日本文化に着目しユーモアたっぷりの文章で教えてくれるこの本。

節分といえば豆まきが一般的ですが、柗の枝に焼いた鰯の頭を刺した柗鰯(ひいらぎいわし)を魔除けとして飾る風習もあるのだとか。知らなかった文化がいっぱいで、もっと知りたいと知識欲が湧いてきます。

『わくわくほっこり』

二十四節気を楽しむ図鑑』

君野 倫子／著

二見書房

【 449.3 キ 』

日本には四季の他に二十四節気と七十二侯があり、古くから季節の移り変わりを大切にしてきたことがうかがえます。2月上旬は「立春」。旧暦ではこの時期が春の始まりであり、一年の始まりでした。そのページをめくると、ふきのとう、梅、針供養などが紹介され、春が近いことを感じられます。忙しい日々の中で忘れがちな季節の到来をやさしく気付かせてくれる一冊です。

2022年秋

図書館へ ゆこう!!

10月20日(木)~11月9日(水)

秋に開催した図書館へゆこう!!は
多くの方にご参加いただきました!
各イベントの様子をご紹介します!

わくわくおはなしまつり



10月
22日
(土)

大型絵本や手遊びなど
盛りだくさんなおはなし会でした♪

おひざでだっこ 布の絵本のおはなし会



10月
25日
(火)

赤ちゃん向けのおはなし会は
布の絵本などで楽しんでもらいました♪

まどかフェスティバル×図書館へゆこう!! 本で楽しむボードゲーム



11月
6日
(日)

中学生から大人の方まで幅広い
年代の方にご参加いただきました!



杉山亮 ものがたりライブ&講演会 「子どもとものがたりのいい関係」



10月
23日
(日)



杉山亮先生

杉山亮先生の語りや手遊びで
会場は盛り上がりました!

図書館員のつぶやき

まだまだ寒い日々が続いていますが、みなさんはこの季節ならではの思い出はありますか。私は幼い頃住んでいた北海道のことをよく思い出します。校庭でスキーやスケートの授業をしたことや移動販売車の魚屋で買った鮭とイクラが美味しかったこと、父とのスキーの特訓は毎回泣きながらしていたことなど何年経っても忘れられないものです。これからも思い出を重ねつつ、今を楽しんでいきたいです。(N)

こんなお尋ねがありました



しらべものカウンターでは、皆さんの調べもののお手伝いをしています。どのようなお手伝いをしているのか、寄せられた質問と共にご紹介します。

Q1 昭和20年から昭和30年代の大野城市の地図が見たい



回答

- 『大野城市史 民俗編』【CC 014.7 才】P404に昭和25年の地形図が掲載されています。
- 『おおの町勢要覧 福岡県筑紫郡大野町 1968[昭和43年]』【CC 318.2 才】昭和43年7月作成、大野町の全図が掲載されています。

Q2 国民の祝日について知りたい



回答

- 「国民の祝日に関する法律」は数年ごとに改正され、月日も毎年異なるため、最新情報は内閣府HP「国民の祝日に関する法律」をご覧ください。最新の国民の祝日の名称・月日が2年分確認できます。
- 『記念日・祝日の事典』【R 386.9 キ】
- 『1年まるごときょうはなんの日？国民の祝日』【204 1】

Q3 あられの作り方が知りたい



回答

- 『おもち』【U 596.3 才】P99 乾燥させたもちを切って揚げるレシピが、様々な味付けとともに記載されています。
- 『保存食の絵本 3』【596 柿】P18 もちを切って干し、揚げて塩をまぶすレシピが記載されています。
- 『きせつの行事りょうり』【596 キ】P11 ごはんを使った「ひなあられ」の作り方が記載されています。

図書館HPではレファレンスデータベース事例を検索できます。今回ご紹介した質問以外にも、様々な事例を紹介していますのでぜひご利用ください！



しらべもののページは
こちら



調べもの相談(レファレンス)
Reference

図書館カレンダー 休館日

2月 February

3月 March

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

としょかんのおはなし会*りとする*

・赤ちゃん向け

- 2月14日(火)、2月28日(火)
- 3月14日(火)、3月28日(火)
- ①10:30~10:45
- ②11:30~11:45

・幼児~小学生向け

- 2月4日(土)、2月18日(土)
- 3月4日(土)、3月18日(土)
- ①10:30~10:50
- ②11:30~11:50

お す す め の 本

『清少納言を求めて、
フィンランドから京都へ』
ミア カンキマキ／著
末延 弘子／訳
草思社【 993.6 カ 】

外国人が平安時代の人物に興味を持ち、清少納言を「セイ」と呼びかけるエッセイ形式の語り口に、新鮮な驚きを感じます。中宮定子に仕え、枕草子に好ましいものを書き連ねる「セイ」を、現代のキャリア女性やブロガーのように見た著者の視点や、女性がこの時代に物を書くことに対するジェンダー的考察など、「セイ」と自身を重ね合わせた着眼点が興味深い1冊です。

来日中、3.11の震災時の緊張と混乱もあった中、桜への憧れや日本食を楽しんだことなど、日本滞在記の面も垣間見えるノンフィクションです。(Y)

『失われゆく仕事の図鑑』
永井 良和・高野 光平ほか／著
グラフィック社
【 384.3 ウ 】

かつての日本では、参拝する時間がない人に代わって寺や神社にお参りする『代参商』、お正月に餅つきの道具を携え家々で餅をついて回る『賃搦き屋』などが仕事として存在していました。本書ではこれらのような今ではなくなってしまった仕事が、写真やイラストを交えて多数紹介されています。

なくなった仕事として紹介されているものの中には、旅行代理店や CD レンタルなど、形を変えて現代に残っているものもあるように感じます。世の中のニーズに合わせて消えていく、また形を変えていく仕事はその時代の世相を表すものといえるのかもしれませんが。(K)

『気持ちを表すことばの辞典』
飯間 浩明／監修
ツヅキ エイミ／絵 252%／絵
ナツメ社
【 814.5 キ 】

人は、満足している時よりも、不満や不安がある時のほうが気持ちを細かく表現したくなるそうです。怖い時の言葉だけでも、「畏怖する」「肝を冷やす」「ぞくぞくする」など、様々な表現があります。ニュアンスの違いや、リズムのよいオノマトペ(擬声語)の豊富さからは日本語がいかに繊細であるかを感じられます。

言葉について分析されたコラムも載っていて、知らない表現と出合うだけでなく、言葉の魅力を感じられて読み応えがあります。自分の気持ちをどう表したらよいか迷った時に、この本を開いてみるとヒントになるかもしれません。(H)



春の夜は
軒端の梅を
もる月の
ひかりもかをる

心ちこそすれ

藤原俊成

『日めくり四季のうた』より



ご来館の際は図書を入れるための袋(エコバッグなど)をご持参いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

みなさまの作品(イラスト、エッセイ、詩)、書評やパララへの要望など、お寄せください。郵送または館内のご意見箱へどうぞ。
(作品返却、掲載予定のお返事はできません)



つどい・ふれあい・はばたく
大野城まどかぴあ図書館

公益財団法人大野城まどかぴあ
816-0934 福岡県大野城市曙町2丁目3番1号
TEL 092-586-4010
<http://www.madokapialibrary.jp/>

モバイルサイトはこちら→

